

まちづくりの地域情報紙

e EIGENJI **NET** **6500**



祝 市道山上上二俣線改良工事竣工



通行方法の動画

ドローン撮影
kazu style
川崎 一路

情報紙 第102号 2022年 5月 1日

4月4日、待望の全線開通

編集・発行：永源寺地区まちづくり協議会 東近江市山上町 1316 番地 永源寺コミュニティセンター内
IP：0505-802-9336 <http://members.e-omi.ne.jp/e-net6500/> E-mail：e-net6500@e-omi.ne.jp

まちの話題



雪掻き分けながら放流 愛知川上流漁協、溪流釣り解禁



イワナやアマゴ、ニジマスが釣れる愛知川上流の溪流釣りが2月26日に解禁され、この日を待ち侘びた釣り客が大勢訪れ、溪流釣りを満喫されていました。愛知川上流漁業協同組合では、毎年、組合員や釣り愛好家などボランティアの協力で、解禁日前から数回にわたり4トンの成魚と稚魚を放流されていますが、今年は大雪の影響で除雪作業と雪を掻き分けながらの活動となりました。

愛知川上流の溪流釣りの人気は高く、昨年の釣り客は最高値を記録。「このような状況での放流は初めてでしたが、早く暖かくなって溪流釣りを楽しんでもらいたい」と話されていました。

藤切神社の社務所改築 伝統文化の継承を願い完成

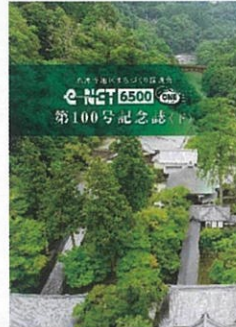
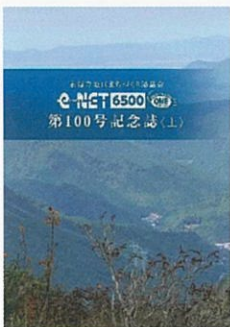


甲津畑町の藤切神社境内にある帳屋（長屋、張屋、聴屋とも）と呼ばれる社務所の改築工事が完成し、2月23日、竣工式が行われました。

藤切神社は奈良時代に創建されたと伝えられる古い神社で、当社の建立を元慶元年（877）と記された宝徳3年（1451）の棟札が今も残ります。

福祝いなどの伝統的な行事が行われてきた帳屋は、築100年以上とも言われ老朽化が著しく、改築は氏子の皆さんの長年の懸案であり、昨年7月から工事が進められてきました。当社は、古式ゆかしい宮座制度が今も残り、関係者は、さらなる伝統文化の継承を願っておられました。

「e-NET6500」100号記念誌発行 上下巻セット 5,000円で頒布



永源寺地区まちづくり協議会が発行する情報紙『e-NET6500』の100号記念誌が、このたび発行されることになりました。

合併して東近江市となった平成17年6月に創刊した『e-NET6500』は、今年1月号で100号を迎えました。記念誌は1号から100号までを収録。合併してからの永源寺地区のまちづくりのあゆみをまとめた記録集でもあります。自治会や関係機関に配布するほか、希望者には上下巻セット5,000円で販売します。お申し込みは、永源寺地区まちづくり協議会までご連絡ください。

願い届け！市原小卒業生が バルーンリリース



市原小学校で、3月22日、今年卒業した6年生たちが願い事を託した風船を放つ、バルーンリリースが行われました。新型コロナウイルス感染症で学校生活に影響を受けた6年生に、卒業記念の思い出にと、東近江市商工会永源寺支部の皆さんが企画され、お手伝いされました。

児童たちは、将来の夢を記した自分の風船を探したあと、校庭で一斉に風船を手放し大空に吸い込まれるように飛んでいくと歓声を上げていました。風船やカードは、土に返る環境に優しい素材であることから、バルーンリリースと呼ばれています。



永源寺診療所完成

5月9日、診療開始

昨年7月から工事が進められていた新しい永源寺診療所が完成しました。

老朽化した保健センターの跡地に建築された診療所は、2階建ての延床面積633㎡。3室の診察室に加え感染症対策用の診察室1室のほか、処置室、検査室、レントゲン室、在宅医療に従事する医師のための当直室などがあります。2階には診療

所を中心とした支えあいや多機能連携の拠点機能を持つ研修室が設けられています。工事費は約2億円。

ゴールデンウィークを利用して引越され、5月9日にオープン。その後、現在の診療所の取り壊しが行われ、駐車場になる予定です。解体工事中も、ご迷惑をおかけしますが、安全にご利用ください。



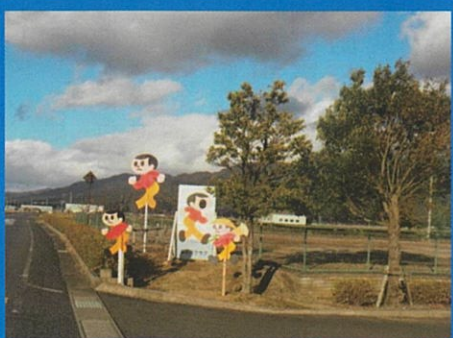
上：受付カウンター
下：窓を大きくとり、明るく眺めもいい待合室。換気による感染防止対策にも配慮



ほんの、一瞬でしたが...

東近江市がロケ地となったNHKの人気番組「鶴瓶の家族に乾杯」が3月7日に放映されました。大雪となった12月18日に撮影されたもので、この日のゲストは朝ドラ主演の安藤サクラさん。

ロケ地は能登川の伊庭町や五個荘、八日市の本町商店街でしたが、番組の中で飛び出し坊やも紹介され、ほんの一瞬でしたが、市原野町のジャンボとび太くんなども画面に映りました。次こそは永源寺がロケ地となりますように。



暮らしやすい地域づくりを考える「まちづくりフォーラム」が、2月23日、永源寺コミュニティセンターで行われました。

このフォーラムは、まちづくり協議会とコミュニティセンター、自治会連合会がともに地域の課題を共有して、課題解決に向けて暮らしやすい地域づくりを考えていただくきっかけをつくらうと企画され昨年に続いての開催。今年は

地域医療の展望をテーマに、「医療機関のネットワーク」や「健康長寿」について、市の関係者から現状と課題が報告されたほか、永源寺診療所の花戸貴司先生から「永源寺診療所がめざす地域医療」についてのお話がありました。意見交換には小椋正清市長も参加され、介護制度や救急医療について質問されるなど、自らの健康や暮らしやすい地域づくりについて、考えておられました。

東近江市内の医療機関

公的医療機関		
東近江総合医療センター	国立病院機構	320床
東近江市立能登川病院	指定管理	102床
蒲生医療センター	指定管理	19床
永源寺診療所	指定管理	
永源寺東部出張診療所	指定管理	出張診療所
あいとう診療所	指定管理	
湖東診療所	国保特別会計	
鋳物師診療所	指定管理	出張診療所
長峰診療所	指定管理	出張診療所
民間医療機関		
病院	5カ所	1,133床
診療所	93カ所 (医科50、歯科43)	19床

■地域医療崩壊の危機
医師の長時間労働や訴訟リスクの高まりなどを背景に、平成16年に医療制度が改革され、その影響を受けて地方の公立病院では医師不足により患者数が減り、それに伴い医業収益も減少、病棟閉鎖などが続き病院の存続が危ぶまれていました。
そこで、平成22年、市内の国立病院を集約し、滋賀病院（現在の東近江総合医療センター）を中核病院とし、能登川・蒲生病院を後方支援病院と位置づけられました。そ

医療機関のネットワーク
東近江市健康福祉部 夏原善治管理監

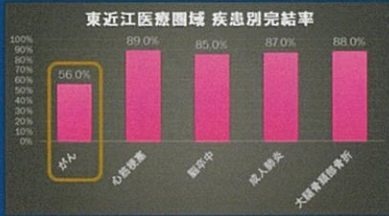


れに伴い滋賀病院の病床数を220床から320床へ、能登川病院を120床から60床（のちに102床）へ、蒲生病院を120から19床へと再編されました。

■指定管理者制度を導入
その後も公立の病院・診療所では医師確保が難しく、患者数が減少し赤字経営が続きましたので、能登川病院は平成27年に、蒲生医療センターは令和2年に指定管理者制度を導入し、どちらも医療法人社団昂会に運営をお願いしました。
これにより常勤医師も確保

東近江市が目指す地域医療の将来像②

地域でつくる総合病院に欠けているものは・・・



がんに対する完結率を高めることが東近江圏域の重要課題

■がんセンター開設
近江八幡市や日野・竜王町を含む東近江医療圏域では、心筋梗塞や脳卒中などの疾患に比べ、がんの完結率が著しく低い現状で、東近江市がめざす「地域でつくる総合病院」に欠けているのが、がんに対する治療です。
そのため蒲生医療センターに早期発見できるPET-CTや、高精度の放射線治療装置リニアックを装備するがん

地域医療連携推進法人における取組 (将来構想)



センターを設置し、昨年10月から診療を開始しています。
■地域でつくる総合病院
市では、良質で質の高い医療を継続的に提供していくために、安定して医師を確保し、特化した診療科目を持つ病院や診療所、介護施設などが連携して築く「地域でつくる総合病院」をめざしています。
そこで、行政や医師会、医療法人、学校法人などが参加する「一般社団法人東近江メディカルケアネットワーク」を今年1月に設立しました。
医療機関をはじめ多様な事業者が法人に参加することで、お互いに連携し、地域における質の高い効率的な医療提供体制を構築することが目的です。4月1日からは、新たに地域医療連携推進法人としてスタートし、まずは共同研修や医師らによる市民向けの出前講座の開催などを予定しています。将来的には、病床の機能分担や在宅医療との連携、予防医療の充実、共同での人材育成や医療機器の共同利用、電子カルテの閲覧などを実施していく予定です。課題を共有しネットワークを活用して「地域でつくる総合病院」を目指していきます。

永源寺地区 まちづくり フォーラム

地域医療の展望

住み慣れた地域で
暮らし続けていくために



永源寺診療所がめざすもの

- 子育て支援のための集いの場
子育て世代のための交流スペース
- コミュニケーションスペース
暮らしや健康に関する相談窓口
地域住民の学びの場
気軽に参加できる居場所づくり
世代を超えて繋がる交流の場
医療・介護・福祉の連携の場
地域ボランティアの育成の場

診療所がめざす地域医療

永源寺診療所 花戸貴司所長



永源寺診療所に赴任したときは、病院と同じ最高の医療を届けよう、そんな思いがありました。患者の病気を治すことが第一で、病気を診るだけで、患者をみようとしなかった。病院で直す医療も必要ですが、家族や地域で支えあうことも医療のひとつだと気が付かされました。

感染症や急性疾患などには医療の介入が欠かせません。高血圧や糖尿などの慢性疾患は、薬物療法や食事・運動・禁煙などの生活指導が重要で、見つけて早く治療することが求められています。そして今、寿命が延び足の障害

や若い、認知症などが増えてきました。これらの予防策はありません。

健康を維持するためには、居場所と役割こそが大切です。一人で歩くより人と接しておしゃべりする方が効果的という統計結果もあります。

特に男性は、組織に参加して地域で役割を持つことが長生きの秘訣といえるでしょう。みんなが集える場、運動できる場を提供しようとフィットネス施設を作りました。

診療所は新しくなりますが、高度な医療機器が増えるわけではありません。しかし、診療所のスタッフは、誰よりも地域の皆さんの顔と名前を知っています。病気になるれば、「病院や介護施設に預かってもらいなさい」ではなくて、年をとって病気になるっても認知症になっても、ずっとこの永源寺地域で暮らし続ける、皆さん健康で長生きできる地域づくりを応援していきたいと思っています。それが、永源寺診療所がめざす地域医療の最先端であると思っています。

健康長寿をめざして

東近江市保健センター 木下幸代主幹



介護認定者数は年々増加しています。新規での認定の平均は概ね81歳前後です。特に要支援1から要介護1の軽度者の割合が増えています。コロナ禍で外出控えとなり、家族からの相談も増えているのが現状です。

永源寺地域では、生活習慣病で医療機関を受診している人の割合や認知症の診断を受けている人の割合が、県や市の平均よりも高いのですが、認知症の診断があっても要介護認定を受けている人の割合が、県や市の平均よりかなり低いのが

医療費、介護保険費用の推移（平成29年度と令和2年度の比較）

国民健康保険	被保険者数		医療費総額		増減
	平29	令2	平29	令2	
	24,002人	22,273人	78億3,626万円	69億8,874万円	△8億4,752万円
後期高齢者保険	被保険者数		医療費総額		増減
	平29	令2	平29	令2	
	14,430人	15,070人	121億7,619万円	122億3,094万円	5,475万円
介護保険	認定者数		介護給付費		増減
	平29	令2	平29	令2	
	4,489人	4,657人	70億652万円	74億8,139万円	4億7,487万円

特徴です。地域での繋がりのお陰ではないかと思っています。

軽い障害の状態を放置せず、食事や運動などの生活習慣の改善で認知機能の維持・改善が可能といわれています。

高齢者の健康な状態と要介護の状態の間にある虚弱状態をフレイルと呼びます。「もう、年だから仕方ない」ではなく、フレイルな状態にならないために、栄養・運動・社会参加に心がけてください。

保健センターでは、健康や栄養相談のほか、地域での「まちリハ」事業やスクエアステップ講座なども開催していますので気軽に相談してください。

平均寿命は延びています。長い高齢期をいかに過ごすかが、大切です。



クローズアップ☆

おうみ社会貢献賞を受賞

相谷の里山を美しくする会



道路側溝の土浚え

永源寺相谷町の相谷の里山を美しくする会（代表寺田清司さん）が、このほど滋賀県市町村振興協会から第10回おうみ社会貢献賞を受賞されました。この賞は地域に密着した社会貢献活動の取り組みに対して表彰されるもので、今年には県内5団体が選ばれました。

同会は、相谷町周辺の環境荒廃が進む中、平成25年10月に『自然は人間が少し手を貸してやると見違えるように蘇る。子どもどころ遊んだ里山を取り戻し、子や孫にそこでの遊びの楽しさを伝えよう！』との有志の声で発足しました。現在、永源寺相谷町に居住する50〜70代の男性ばかり17人のグループです。将来にわたり住民が快適

新しいまちのお巡りさん

今年度から、政所駐在所に赴任してまいりました亀澤雄樹（かめさわ ゆうき）です。前年度までは、能登川駅前交番で勤務していました。

わたしは警察官になってからまだ日が浅く、頼りなく見えてしまうかもしれませんが、自分にできることを精一杯こなし、少しでも皆さんに頼ってもらえる存在になりたいと思っています。

まだまだ若輩者ですが、皆さまと協力して永源寺地区の安全を守っていきます。

よろしくをお願いします。



に住み続けられる環境を維持すべく、主に月2回の草刈り伐採等の活動と年2回の子どもを対象とした体験活動などをされています。

この2年間は、コロナ禍の中で体験活動や福祉サロンなど他団体との協働活動もやむなく制限されていますが、市道の土さらい、路肩の草刈、地元熊原神社周辺の整備、谷周辺石垣の草刈など、地道に活動を継続されています。

また、毎月の自治会回覧版を通して活動報告をされており、木の伐採や草刈などの環境に関

する困りごとの相談もされています。地域のお年寄りからは「里山さん」と呼ばれて、頼りにされています。



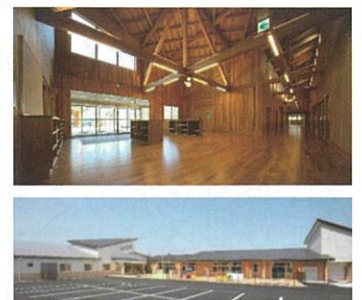
集落内の空き地の雑草対策



八日市駅前マンション



永源寺診療所



永源寺もみじ幼稚園

設計・監理



株式会社 野田建築設計事務所

東近江市中野町 800-1
☎ 0748-22-1205

こんにちは保健師です ⑩

フレイル予防の ポイントって、なに？

前回お知らせしましたように、フレイルとは、健康な状態と介護が必要な状態のあいだです。介護が必要にならないように、生活習慣を見直し改善することでフレイルが予防できます。



今回はフレイル予防のポイントについてお話しします。

①身体を動かし筋力の低下を防ぎましょう

自宅でも家事などで積極的に身体をうごかすように工夫しましょう

②たんぱく質を積極的にしっかり3食たべましょう

1日3食、バランスのよい食事をとり体力や免疫力を保持しましょう

③口の中を清潔に保ちましょう

口を清潔に保ち口の周囲を動かす口腔体操で、口の周りの筋肉を維持しましょう

④人との交流で互いに支え合しましょう

人とのコミュニケーションをとることは脳に刺激を与えるので友人、家族との交流や支え合いを大切にしましょう



永源寺地域が登場する本

永源寺図書館

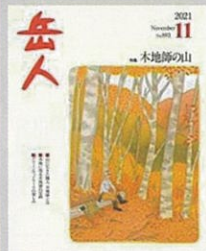
『近江国見聞録 伝承を訪ねて五十年』

小牧實繁／著 滋賀民俗学会



相谷、佐目、萱尾、九居瀬、如来堂(政所)、夢畑、黄和田、紅葉尾、中畑(政所)、政所、箕川、蛭谷、君ヶ畑、茨川。昭和7年から昭和8年にかけて、著者が歩いた村々の様子が記されています。相谷では農耕用の牛を市辺から借りてくる、なぜかという市辺よりも田植えがひと月も遅いから……ということ。黄和田で焼いた炭はまず相谷にある問屋へ出荷すること。蛭谷には八日市・夢畑・政所、そして伊勢の富田方面から魚を売りに来ること……などなど、当時の生活の様子がうかがえる、興味深い記録です。

雑誌「岳人」2021年11月号 NO.893



特集「木地師の山」。巻頭に小椋市長へのインタビューが掲載されているほか、蛭谷・君ヶ畑の紹介、東近江市でも開催されているアウトドアイベントSEA TO SUMMITのページもあります。

また、「とっておきの山歩き」コーナーでは、鈴鹿山脈を形成する山のひとつイブネ(標高1160m)がとりあげられています。



ハリカ葬祭ホール

〒527-0231 東近江市山上町2910

霊柩車・寝台車病院のお迎え等

24時間体制
年中無休

☎ 0120-83-1678
〈TEL〉0748-27-1678
〈FAX〉0748-27-1148



新館・本館・別館をご利用ください

ラウンドアバウト開通

開通前に交通安全教室



山上町と上二俣町を結び市道山上上二俣線の改良工事が、事業開始から8年の歳月をかけ完了しました（延長900m、事業費4億8,000万円）。

交通事故が多発していた県道との交差点は、ラウンドアバウトと呼ばれる環状交差点として整備され、4月4日、午前7時に開通しました。

開通に先立ち3月31日には、慣れない交差点を安全に通行できるように、近隣の自治会住民や園児、中学生を対象に交通安全教室が行われました。

また、この日の午後は、近隣自治会の高齢者を対象とした交通安全教室が、体育館で行われました。



ラウンドアバウトは、信号機のない環状交差点のことです。車両は、右回り（時計回り）に通行することが指定されています。通行するルールの基本は、環状内を通行している車両が優先で、環状内では右回りに通行し、出るときに左ウインカーを出します。もちろん、歩行者や自転車への安全確認と安全な速度での通行は必須です。

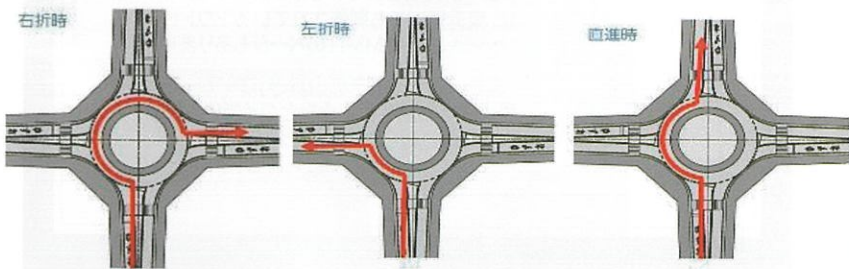
重大事故の減少のほか、交差点での待ち時間の短縮、環境や災害対策のメリットがあることから全国で導入が進んでいます。県内では6例目、市内では初めての設置となります。



この日の交通安全教室には、小椋市長や四谷東近江警察署長、平松東近江土木事務所長のほか、近隣自治会長らが出席し完成を祝いました。

ラウンドアバウトの通り方

東近江市



2月23日、永源寺地区まちづくりフォーラムを取材しました。永源寺地区の地域医療は花戸先生を中心に「チーム永源寺」による医療従事者、行政、社会福祉協議会、ボランティア団体が丸となった地域の医療を支え、高齢者にとっても住みやすい地域であります。フォーラムでは、日野記念病院、湖東記念病院と連携し、蒲生医療センター病院、能登川病院をうまく活用した東近江市全域を考えた地域医療連携の話がありました。小椋市長から「東近江の鈴鹿の山々から琵琶湖までの大自然を生かしたまちづくり」のお話は度々聞いていましたが、東近江市全体の地域医療連携構想をお聞きするのは初めてでした。

東近江の抱える様々な課題を前向きに解決し、住みよいまちづくりのための政策は交通機関の充実など、ほかにたくさんあると思います。地域医療連携も様々な課題の一つです。このような情報をフォーラムなどで知ることは大切なことですし、まち協からも情報発信することが必要と感じました。まち協の情報誌も100部の節目を越え、永源寺地区の皆様から情報誌についての激励をいただきました。まだまだ、お伝えしなければならぬ情報がたくさんあると思います。永源寺にお住いの皆様に、有益な情報をお伝えすることの大切さを改めて認識し、これからも「読んでいただける紙面づくりに心がけたいと思います。情報誌に関する感想や載せて欲しい情報などをお聞かせいただければ幸いです。(S.Y.)

編・集・後・記